

第183回拡大地方委員会③

3月4日（土）10時～ 県教育会館

国労

蘇我運輸区分会ニュース



仲間の発言に学び！

職場より

①社員代表選挙に関して「年寄りも若い人じゃないか」「若い人に任せれば」という声も出ていたが、任せるだけではダメだ。JESS内では成田管区のみ国労から立候補を出した（小見川駅・佐藤さん）。多くの組合員が情報を共有し、選挙運動

に取り組んでいる。そんな中で年配者や若い人の不安や不満の声を聞くことが出来た。

JESS内で働く若い人たちにどうしたら労働運動や組合の重要性を分かってもらえるのか。全国で若い組合員が頑張っている、各職場には中々伝わってこない。どんどんグループラインを活用してほしい。

分会再編に関しては、組織的に厳しい現状であり、地本の提起もやむを得ないと考える。財政に関しては、個人のものではないと組合員に訴えてきた。今後は班として継続していくことを

確認した。

④統括センター分会となり、圧倒的に館山方面の組合員が多くなったが、定期的な執行委員会の開催をめざす。

選挙は国労が出れない歯がゆさがあるが「会社が推す若い人じゃダメだ」という意識で闘っている。公職選挙法に準ずる取り組みが必要で、選挙の公平さを求めていきたい。

国労組合員がいる職場には若いプロパー社員は置かないようだが、プロパーの人たちとも話しこみながら運動を進めていく。

職場に残そう、労働運動！

要員体制がアンバランス。

⑤3分会の統合で、津田沼分会となり、活動を始めている。みどりの窓口の廃止等、利用客を待たせる事象が多発している。ダイ改後のバリアフリー料金など、様々な施策が発表され、説明も受けたが理解しきれない。津田沼、西船橋面駅の遺失物対応について。

募張車輛センター

（駅業務から）エルターで初めての運輸区職場となった。要員に関して、退職予定など事前に分かっているのに補充が出来ていない。プロパー社員を信号所の兼務として使い、その関係で構内では要員が足りなくなっている実態。

65歳までのスキルを持つっている人をもっと

施設職場より

もっと有効に活用出来るはずだと思う。

作業計画システム（メイプル）が導入されたが不具合が解消されないまま仕事が続けられている。見切り発車で業者の労働時間は長くなる。

⑧外国とはひとり一人の意識が違うが、国労も是非ストライキで構えてほしい。テレワークの実態はほとんど何もなく、月4回までと何の説明もなく一方的に決まっている。会社側の社員代表は何もしていない。



☆ このあと答弁、集約、全ての議事が採択され、加藤委員長の団結ガンパローで閉会しました。補足は後日に。